

講義コード	513135202									
講義名	体育IV CD									
(副題)										
開講責任部署	幼児教育科（短大）									
講義開講時期	後期									
基準単位数	1									
時間	0.00									
代表曜日	水曜日									
代表時限	1 時限									
科目分類名	専門科目									
科目分野名	教科に関する科目									
対象学部・年次	短期大学部・1～2年									
必須/選択	選択必修									
担当教員										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専任教員</td> <td>藤村 透子</td> <td>指定なし</td> </tr> <tr> <td>専任教員</td> <td>教務委員会（短大）</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	専任教員	藤村 透子	指定なし	専任教員	教務委員会（短大）	指定なし
職種	氏名	所属								
専任教員	藤村 透子	指定なし								
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし								

授業の概要

体育Ⅲの単位取得後に受講すること。

授業の概要

幼児期に習得しておきたい「36の動き」について、知識と技術の両面から学習する。

授業の方法

①プレゼンテーションの方法

授業では、配布資料や板書を活用する。

②授業形態

実技形式およびグループワークを行う。

③アクティブラーニング

リズム体操、運動遊び、グループワークの発表を実施する。

④課題に対するフィードバックの方法

提出物の内容を確認し、コメントを記入して返却する。

授業の到達目標及びテーマ

ねらいに合わせた運動遊びを指導できる能力を身につける。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

本授業は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「5.音楽・図画工作・体育の技術と表現を身につけ、乳幼児に指導できる。」と「7.他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる。」を達成するための科目である。

授業計画表

回	項目	内容
第1回	ガイダンス	グループ分け
第2回	幼児期に習得しておきたい「36の動き」について	
第3回	リズム体操（1）	グループ学習（体操を決める、踊る）

第4回	リズム体操（2）	グループ学習（踊り方を描く）
第5回	移動系・平衡系の遊び（1）	グループ学習
第6回	移動系・平衡系の遊び（2）	発表（1～2グループ）
第7回	移動系・平衡系の遊び（3）	発表（3～4グループ）
第8回	移動系・平衡系の遊び（4）	発表（5～6グループ）
第9回	移動系・平衡系の遊び（5）	発表（7～8グループ）
第10回	操作系の遊び（1）	グループ学習
第11回	操作系の遊び（2）	発表（1～2グループ）
第12回	操作系の遊び（3）	発表（3～4グループ）
第13回	操作系の遊び（4）	発表（5～6グループ）
第14回	操作系の遊び（5）	発表（7～8グループ）
第15回	授業全体のまとめ	36の動きについて

授業時間外の学修

授業の最初に、リズム体操を行う。担当者は事前に打ち合わせをし、練習をして授業に臨むこと。（予習課題）

事前にシラバスを読み、各種目の遊びについて調べておくこと。（予習課題）

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませ、体操ノートをまとめておくこと。

予習課題に10分、復習課題に35分かかると想定される。

実務経験の有無

--

ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
	◎	◎	

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
運動遊びの専門的な知識	保育者として専門的な知識を持ち、子どもの健全な育ちを支援できる	保育者として専門的な知識を持っている	保育者として専門的な知識を学習したが、不十分である	保育者としての専門的な知識がほぼ修得できていない
運動遊びの専門的な技能	保育者として専門的な技能を持ち、子どもの健全な育ちを支援できる	保育者として専門的な技能を持っている	保育者として専門的な技能を学習したが、不十分である	保育者としての専門的な技能がほぼ修得できていない
運動遊びの指導力	保育者として、状況に応じた運動遊び等の保育実践ができる	保育者として運動遊び等の保育実践ができる	運動遊び等の保育実践に課題があり、課題解決への見通しがある	運動遊び等の保育実践に課題があり、課題解決への見通しが無い

成績評価法（表形式）

--	--	--

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト等		
成果発表		
授業への貢献度	60%	グループ発表、授業態度
レポート	40%	提出物（体操ノート）
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する その都度解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

チャット メール等の活用

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60～100%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
プレゼンテーション	PBL(課題解決型授業)	

教科書

なし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

『新版 遊びの指導』（財）幼少年教育研究所 編著（同文書院）
『幼児期運動指針実践ガイド』日本発育発達学会（杏林書院）

SDGsとの関連

4. 質の高い教育をみんなに

特記事項等

①科目のナンバリング
STE2404

②オンライン授業の実施方法

Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、小テスト、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。

③その他の特記事項

短大指定の体育着およびシューズを着用すること。（スカート・ジーンズ・素足等での受講は安全上認めない）

授業が始まるまでに、アクセサリ類（指輪、ネックレス、ピアス等）は必ず外しておくこと。また、髪が長い学生は一つにまとめること。

研究室（訪問先等）

中央研究棟 2階 223 研究室

第2 体育館 2階 体育教員室

2022年度後期は、月・水が出校日です。研究室または体育教員室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

fujimura@sakushin-u.ac.jp